

(1) 施策の外部評価の結果 【第5回】

基本政策	市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり
施策展開の方向	地域の力が発揮できるまちをつくる
施策	33：市民や様々な団体との市民協働の推進
目標とする状態	●多彩な市民協働事業が活発に行われ、多くの市民が協働事業の主体となってまちづくりを進めています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より遅れている	<ul style="list-style-type: none"> 指標の達成状況から判断した。しかし、伊勢原市のさらなる発展のためには、市民が持つ経験や知識は貴重な資源であるため、この施策は強力で推進すべきであるとする。 サポートセンターの利用者数、市民協働事業協定締結が増えていることは成果の表れと考える。 幅広い層の参加を促すための取組が必要だと思ふ。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	B 計画どおりの成果が得られている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	
計画事業の構成に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 市民意識の反映に関する定量評価や内部評価結果を踏まえると、目標達成度の評価指標や施策の一部は見直しを検討する必要があると思ふ。 定量評価のみではなく、「市民協働の推進」の内容に関する評価指標が必要であるとする。 市民活動に参加していない層の人が参加してみようと思ふような環境づくりが必要だと思ふ。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	c 構成に問題がある	c 構成に問題がある	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	C 反映できていない	<ul style="list-style-type: none"> 市民は今まで行政主導のもとで市民活動や地域活動を行ってきた経験が多いので、市民主体のまちづくりの必要性に対する認識が低いのではないかと。 市民は必要性を認識していると思ふが、重要性への理解が進んでいないのが現状と思ふ。市民活動サポートセンターや市民協働事業は、市と市民をつなぐ重要な基盤であることを実感できるように、市は努力してほしい。 市民としては、社会貢献活動や公的サービスの一翼を担う市民活動への継続的サポートと活動拠点の提供を求めていると思われる。このため、市民協働推進事業の協定締結数や相談件数を評価指数にすることは、市民意識の反映の視点からは方向性に相違が生じていると思われる。 重要度が市民に理解されていないのは、市民協働の内容に関する情報不足、理解不足が原因と思われる。 市民活動の重要性や参加の意義をより広く広報などでPRしていくべきだと思ふ。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 反映できていない	C 反映できていない	B 概ね反映されている	C 反映できていない	C 反映できていない	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> 市民協働によるメリットを周知することも市民の意識変革につながると思ふ。 市民活動サポートセンターを市民団体主体の運営に移行することを検討していることは良いと思ふ。ただし、市が考えていることが十分に団体に伝わり、良い方向に向かっていくかどうか意識してもらいたい。 内部評価の「施策を取り巻く環境変化」に記載のとおり、市民活動サポートセンターの機能を今後どのように維持し、継続させていくかが課題であると思われる。また、行政として市民活動団体との協働分野の拡大を目標とするのであれば、行政提案型協働事業に特化したものにすべきと考える。 市民協働は多くの市民が参加することにより、多くの成果が得られるものだと思ふ。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 課題認識できていない	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	A 課題の捉え方が的確である	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	B 課題の捉え方に一部不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民協働により、市民活動や地域活動が促進されれば、伊勢原市はさらに活性化していくと思ふ。 市の特徴を生かし、一層注力してほしい。市民が大変良い仕組みであると実感を得られるよう、迅速な対応をお願いしたい。 課題の捉え方、評価指標の設定、取組施策については、一部を見直すことが望ましい。 具体的成果を示した計画を新たに検討すべきだと思ふ。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大して実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第5回】

基本政策	市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり
施策展開の方向	地域の力が発揮できるまちをつくる
施策	34：多様なつながりで支える地域運営の推進
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> ●多くの市民が地域に関心を持ち、地域の活動に積極的に関わっています。 ●地域の様々な主体の連携により、自立的な地域運営を行うコミュニティが形成されています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成 果が得られてい る	<ul style="list-style-type: none"> ・内部評価の結果を考慮して、計画どおりの成果が得られていると判断した。 ・指標の達成状況から計画どおりの成果が得られていると判断した。なお、自治会ホームページについては、作成したら適宜更新するように促してもらいたい。 ・数値で効果を判断しやすい施策であり、今後より一層重要な施策になると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成 果が得られてい る	B 計画どおりの成 果が得られてい る	B 計画どおりの成 果が得られてい る	B 計画どおりの成 果が得られてい る	B 計画どおりの成 果が得られてい る	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域コミュニティが意見交換できる事業を設ければ、さらなるスキルアップができると思う。 ・自治会を重視した施策であると同時に、個人も重視した施策であると思う。自治会未加入者を減らせるよう、より魅力的な支援が必要だと考える。 ・次の段階へ進んでいくためにも、具体的な活動を提案してほしい。 ・自治会や地域により格差はあるが、地域の役員の活躍によるところが大きいと考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	C 反映できていな い	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画に記載された課題や目標とする状態には、住民や地域が自ら地域の課題を解決するなど、自主的な地域運営の必要性を掲げている一方、市民自由意見を見ると、円滑な地域運営を行うためのコミュニティの形成に関して、行政側に援助を期待している意見が散見される。自治体活動をしている余裕がなく、委員など負担に思っている人が増加しているためであると考えられ、サポートする取組が求められると考える。 ・市民の関心が低いのは、地域における自治会活動が低調なのではなく、余りに日常的なので意見がないのではないかと。 ・自治会活動の理解促進の啓発を進めるべきであると思う。 ・高齢化に伴う後継者不足など、地域のコミュニケーションや活動が減少している現状への危機感を市民が持っているため、新たな対策を検討すべきだと考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 反映できていな い	C 反映できていな い	C 反映できていな い	C 反映できていな い	C 反映できていな い	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯や単身世帯の増加という視点からも課題を捉える必要があると考える。 ・自治会のルールや相談体制など各自治会に合ったやり方を全国の成功事例から広く紹介してもらいたい。 ・本施策の目標は途中段階であるので将来に向けた目標設定が必要と考えられる。今後、マンション建設などにおける自治体の組織化が進まなくなるリスクについて、どう対応していくべきか課題への反映を検討いただきたい。 ・地域コミュニティの変化の実態把握に努めてもらいたい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 課題の捉え方に一 部不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一 部不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティがさらに活性化していけば、一層の住民自治につながっていくと考える。 ・市民間や、市と市民のコミュニケーションを密にして、地域の力が発揮できるようなアイデアを整理、分析していくことが必要である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第5回】

基本政策	市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり
施策展開の方向	地域の力が発揮できるまちをつくる
施策	35：市民に身近な市役所づくり
目標とする状態	●市民誰もが必要な行政情報を手軽に利用し、多様なコミュニケーションや交流が活発に行われています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成 果が得られてい る	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価の結果を考慮して、計画どおりの成果が得られていると判断した。 ITの活用実績と今後の予想から、計画どおりの成果が得られていると判断した。今後も電子申請、届出サービスメニューの充実をさらに進め、市民サービスの向上や行政の効率化に努めてほしい。 広報活動や電子申請メニューが充実しており、大変良いと思う。 情報公開を広げる努力がうかがえる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	B	B	B	
	計画どおりの成果が 得られている	計画どおりの成果が 得られている	計画どおりの成果が 得られている	計画どおりの成果が 得られている	計画どおりの成果が 得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 市民の意見を受信する事業を入れたらどうか。 市が市民から信頼を得るためには、市民からの相談や苦情に対する迅速な処理が重要だと思う。 市民への情報提供の拡大に向けた事業で構成されていると思う。今後は、さらなる情報支援の推進が望まれる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b	b	b	b	b	
	概ね妥当である	概ね妥当である	概ね妥当である	概ね妥当である	概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> 定量評価と内部評価の結果を考慮して、概ね反映されていると評価した。 今後も分かりやすく、透明性の高い情報の発信に努めてもらいたい。 市民相談について、安全、防犯、DVなどの苦情相談体制をより充実させてもらいたい。 市民の重要度、満足度ともにほぼ中間にあるため、概ね反映されていると評価した。 市に対する苦情や不満の多くは、市民が現場の実態を理解していないなどの理由から来ているのではないかと考える。市民に対し、行政実態や実情を正しく伝えることは、行政としての義務であると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	B	A	A	
	概ね反映されている	概ね反映されている	概ね反映されている	反映されている	反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> 市民からの有用な情報収集に努め、それを市政に反映してもらいたい。 情報弱者対応を充実させることが必要だと考える。相談員の充実や啓発活動を行うことが大切である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	A	B	A	A	
	課題の捉え方に一部 不足が見られる	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方に一部 不足が見られる	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> この分野の施策展開は、まだまだ伸びしろがあるため、他市に先駆けた事業を実施してもらいたい。 住みやすい市にするため、一層の工夫をする意気込みが感じられる。情報を発信するだけでなく、吸い上げる工夫も必要だと考える。 情報発信のIT化や、手続のオンライン化を進めるうえで内部評価のとおり、情報セキュリティの強化が必要であると考え。また、IT化の対応が難しい方への対応も踏まえ、バランス良く推進してもらいたい。 情報セキュリティー、市民の個人情報の保護も重点的に行うべきであると考え。 ホームページ等での情報が得られない人や情報弱者などに対する、情報の提供方法に関しての特段の配慮が必要だと思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A	B	A	B	A	
	拡大して実施	継続実施	拡大して実施	継続実施	拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第5回】

基本政策	市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり
施策展開の方向	市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり
施策	36：健全で安定した財政運営
目標とする状態	●市民と財政に関する認識の共有が図られ、財政規模に見合った健全で安定した財政運営が行われています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成 果が得られて いる	<ul style="list-style-type: none"> 縮小再生産のような状況にならないよう、新たな財源確保に努めてもらいたい。 指標の達成状況が良好である。今後の不透明な経済環境に備えるべく、より厳しい目標と規範を守って もらいたい。 景気などの経済的影響があるため、施策推進の予測が困難な分野であるとする。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	A 計画以上の成果が あがっている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 安定した財政運営のための事業は、ほとんど網羅されていると思う。 市債に関する今後の予測を示してもらいたい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> 定量評価と内部評価の結果を考慮して、概ね反映されていると評価した。定量評価における満足度が低 いが、市の財政に対する評価よりも、各個人の要望的意見が散見され、全般的には反映されていることや 前回よりも改善している点を考慮した。 伊勢原市は県内でどのような状況に置かれているかなど、今後とも市民により明確な説明を行う努力を 続けてもらいたい。 この課題について十分理解している市民が少ないと考える。何を以て安定とするのか、きちんと定義 を示す必要があると思う。 社会保障費の増大や消費税の繰延べ等、財政のマイナス要因も大きいので、財政状況の厳しさや財政運 営には市民が一定の理解を示していると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> 市民生活の向上、現状維持のためには、市民負担の増加は不可避であるため、市民の理解が得られるよ う、市からの丁寧な説明と説得が必要と考える。 既存の公共施設について、計画的なマネジメントという考え方は良いと思う。その内容と推進体制を明確 にしてもらいたい。 国際的経済状況等の予測が困難なこともあり、適宜対応する体制が必要であるとする。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 将来の世代に負の遺産を残さないためにも、着実に財政健全化を進めてもらいたい。 事業収入の増大を図ることや支出削減に、より一層推進してもらいたい。 中長期的な視点で、新たな安定的財源の確保対策について検討してもらいたい。 市債の運営、財源に関しては今後厳しくなることが予測されるため、迅速な対応ができるシステムの整 備が必要である。 少子高齢化社会に伴う、民生費の増大や公共施設の総合管理計画など、市民生活に直結する経費等の増 加と財政再建は避けて通れないのが現実だと思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大して実施	A 拡大して実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第5回】

基本政策	市民と行政がともに力を合わせて歩むまちづくり
施策展開の方向	次代へつなげる確かな行財政運営ができるまちをつくる
施策	37：市民に信頼される市政の推進
目標とする状態	●市の財源、組織、職員などを効果的に活用し、市民に必要な行政サービスが適切に提供され、市民から信頼される市政が行われています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成 果が得られてい る	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価の結果を考慮して、計画どおりの成果が得られていると判断した。 近隣市との公共施設の相互利用は非常に有意義であるため、増やしてほしい。職員の定員管理計画については、新たな施策展開が必要となった場合、増員も視野に入れてもらいたい。 限られた予算で効果を上げるには、効率性の向上と他部門との連携が重要である。 人材育成には、職員のモラル向上も重要な要素である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 計画どおりの成果 が得られている	A 計画以上の成果が あがっている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	a 適切な構成であ る	<ul style="list-style-type: none"> IT化の推進でさらなる行政サービスの向上が見込まれるため、事業として取り入れてはどうか。 施策達成のため幅広い事業構成になっていると思う。人・組織・地域等の有効活用と適正化の努力が感じられる。 行政サービスは、市民の年齢層によって受け止め方が異なるため、柔軟な評価をしていく必要がある。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		b 概ね妥当である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	a 適切な構成である
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されて いる	<ul style="list-style-type: none"> 定量評価と内部評価の結果を考慮して、概ね反映されていると評価した。 市民の満足度、重要度の相関が中間点にあるため、概ね反映されていると評価した。 市民からの要望が多い施策であるため、的確に進めてもらいたい。 市民に信頼されるためには、丁寧に素早く行動することが基本であり、今後とも市民意識の把握に力を入れてもらいたい。 市民の求める満足度をどれだけ上げられるかが行政の課題であると思う。常に市民目線での行政執行を市民は求めていると考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> 適切な職員体制が必要であると考ええる。 市民優先で考えると、課題や方向性が明確になると思う。 信頼関係を築いていくには長期間要するため、長い目で見た評価が必要である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> 市政の推進においては、財政健全化、効率的執行体制の確立が必要であると考ええる。 IT化も含め、民間システムの導入検討やPFIなどを適宜検討していくことも期待される。人員削減については、これらを考慮して実施することが重要であると考ええる。 社会情勢の変化により、市民生活や生活環境も常に変化しているため、行政としては前例にとらわれず、現実に即した柔軟な行政サービスの提供が求められると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
		A 拡大して実施	A 拡大して実施	B 継続実施	B 継続実施	A 拡大して実施